

ご飯炊き

高屋西小学校

六年

吉島

正陽

ぼくは、白いご飯が好きではありません。

パコの方が好きです。しかし、ぼくの家は朝

食も夕食もパンではなく、白いご飯ができてき

ます。なぜなら、兄が小麦を食すると体調を

くずすことがある、家ではパンが食べられな

いからです。ただ、ぼくは、白いご飯のおか

げで今のぼくがあると思っています。

ぼくは五才のころから、ご飯を炊いてい

たそうです。そのころ通っていた保育所では、

月に一回おにぎりデーという日があり、自分

達でご飯を炊き、そのご飯をおにぎりにして

食べました。保育所でご飯を炊くことを

覚えたぼくは、家でもご飯を炊いていたよう

です。五才のたん生日に保育所からもうっ

たバースデーカードには、みんなことが書かれ

てありました。

「せいようくん、五才おめでとう。五才にな

って、ご飯を炊いてくれたり、たくさんお手

伝いをしてくれて、お母さんは本当に助か
 ています。とてもうれしいです。お兄ちゃん
 や妹、お友達、先生など、たくさんの人を助
 けてあげられるステキなお兄さんになれると
 思います。これからも笑顔いっぱい、せいよ
 うでいてね。お父さん、お母さんより
 このハリスデーカードは、保育所のたん生
 日会でみんなの前で読まれ、ぼくはとて
 い顔をしてお聞いていたそうです。帰ってか
 も何回もハリスデーカードを読んでもら
 のを覚えています。
 それから、ほぼ毎日、ご飯を炊くことは今
 でもぼくの仕事になっています。仕事でいそ
 がしい母は、
 っいつもご飯を炊いてくれてありがたう。
 と言ってくれます。そう言ってもうえると、
 ぼくは、とてもうれしくなります。ご飯を炊
 くことは、ぼくが人の役に立つといううれし
 さを最初に教えてくれたものです。自分が人
 の役に立ちたいという思いは、白いご飯のおか

げで生まれました。

ぼくの兄は体質的にパンが食べられません。
ぼくの好きなパンは家では食べられません。
ぼくは毎日ご飯を炊くことができません。家族が健
康に暮らすことを支えることができています。
これからも、家族の健康のためにご飯を炊き、
人の役に立てる行動をしていきたいです。